



重要文化財 木製多宝塔

宝徳2年(1450)銘 南北朝時代

88.0cm × 36.0cm × 36.0cm

三溪園蔵

美濃国厚見郡佐波村(岐阜市柳津)に生まれた原三溪(富太郎)は、横浜にて実業家として活躍しました。一方で、芸術を愛し、古美術品の蒐集、近代日本画家への支援なども行いました。

多宝塔とは、多宝如来(東方の宝浄世界にいるという仏)を安置した塔です。一般的に、上部が円形、下部が方形の覆鉢形の二重形式の塔のことです。本作品は、奈良の大工によって作製され、明治36年(1903)に三溪が、奈良の古美術商から購入しました。

(特別展「岐阜が生んだ原三溪と日本美術」にて展示)

***** 館蔵資料紹介 *****

上絵桜に提灯図花瓶

口径 11.1 cm × 9.7 cm 胴径 16.6 × 13.4 cm
高 33.9 cm

肩部から口縁部にかけて一对の把手、底部には四足がつく。断面を楕円形の造りにした花瓶で、モデルはヨーロッパにあるのだろう。一对になっているのも、ヨーロッパの室内装飾で花瓶を一对飾る風によるものだ。

底部には赤絵で「西浦陶器店製」の手書き銘がある。多治見の五代西浦円治（1856～1914）がプロデュースしたいわゆる西浦焼で、輸出用に製造されたもの。西浦焼で釉下彩が主体になる以前、明治20年代（1887～96）のものである。

上部には薄く呉須をかけ、桃・朱・赤・黄・青・茶・黒の上絵で桜樹に吊るされた岐阜提灯を描いている。提灯は桃色をベースにして、藍色（呉須）で花・樹・千鳥などが描かれている。

岐阜提灯で藍絵と呼ばれた通常のスタイルのほか、瓢形や側面が内側に婉曲したものも描かれている。変形提灯と呼ばれるもので、江戸末期に登場し、明治中期以降、輸出用に生産されたことも知られている。明治中期のクールジャパンである。

特集展示「美濃の焼物近代編」（8月1日～9月7日）で陳列する。



利用の御案内

- **開館時間** 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- **休館日** 毎週月曜日と祝日の翌日
(月曜日が祝日の場合はその翌日
但し、8月11日は開館)
年末年始(12月28日～1月3日)
- ※特別展・企画展開催中は変更することがありますので、ご注意ください。
- **観覧料** (団体は20人以上)
歴史博物館総合展示、加藤栄三・東一記念美術館
高校生以上 300円(団体240円)
小・中学生 150円(団体90円)
両館共通で観覧される場合
高校生以上 510円(団体410円)
小・中学生 250円(団体150円)
- **交通案内** JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。
岐阜公園内ロープウェー乗り場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。
- **家庭の日** (毎月第3日曜日)に入館する中学生以下の人に同伴する家族(高校生以上)の人(特別展を除きます。)
■ **岐阜市内の小中学生**の人(特別展を除きます。)
企画展は、総合展示料金でご覧いただけます。
特別展は、その都度料金を定めます。

◎次の方は無料でご観覧いただけますので、手帳等をご提示ください。

- ・岐阜市在住の70歳以上の人
- ・身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の交付を受けている人、およびその介護の人1人様
- ・家庭の日(毎月第3日曜日)に入館する中学生以下の人

博物館だより No.87 2014. 7

編集・発行 岐阜市歴史博物館

〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1 ☎058(265)0010

(分館) 加藤栄三・東一記念美術館

〒500-8003 岐阜市大宮町1-46 ☎058(264)6410